

株式会社フィスコ 事業の御報告

第16期（平成21年1月1日-12月31日）



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第16期事業年度（平成21年1月1日～12月31日）が終了いたしましたので、同期における当社の事業概況についてご報告申し上げます。

また、平成22年3月25日には第16回定時株主総会を開催し、招集ご通知にてご案内のとおり、報告および決議を下記のように行いました。

報告事項

「第16期（平成21年1月1日から平成21年12月31日まで）事業報告、計算書類及び連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件」

決議事項

第1号議案『定款一部変更の件』	原案どおり承認可決されました。
第2号議案『取締役4名選任の件』	原案どおり承認可決されました。
第3号議案『取締役1名選任の件』	原案どおり承認可決されました。
第4号議案『監査役1名選任の件』	原案どおり承認可決されました。

第17期も、皆様のご期待にそえるよう、事業成長・企業価値向上に全力を傾注して努める所存でございます。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社フィスコ 代表取締役社長 狩野 仁志

【第16期事業ハイライト】

■連結売上高	1,033百万円（前期比210百万円の減少）
■連結営業利益	4百万円（前期比152百万円の改善）※3期ぶりの営業損益黒字化達成。
■経常利益	△4百万円（前期比232百万円の改善）
■当期純利益	△15百万円（前期比597百万円の改善）

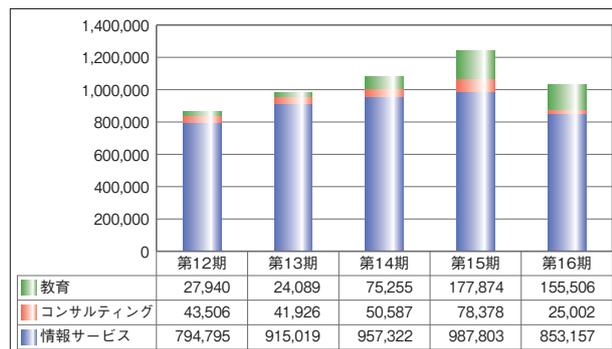
詳細は、次ページ以降の連結財務諸表（要約）をご参照ください。

<当期の主な取組み>

- ◆損益分岐点の引き下げを実現、1,391百万円から1,029百万円（前期比362百万円減少）となりました。
- ◆6月、シグマ社を当社所在地に移転し、経費削減を実施した結果、半年で8百万円減少しました。
- ◆顧客ニーズの特性を重視したコンテンツ配信が評価を得て、大手ポータルサービスにおける当社PV（ページビュー）数が、情報提供会社の中で首位を獲得しました。
- ◆11月、コンテンツ配信の基幹システム「BIRD」を自社開発し、初期フェーズの運用を開始しました。これにより執筆担当者の配信時における作業負担を軽減し、サービスの質と量を向上します。

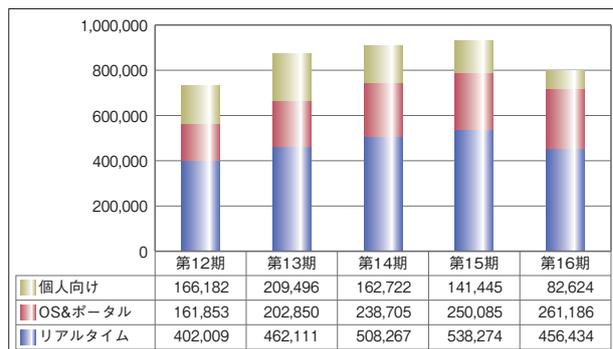
【セグメント別事業の推移】

（単位：千円）



【情報サービス事業における主要3サービスの推移】

（単位：千円）



連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

当事業年度においては、世界的な金融市場の変動のなか事業の安定的継続を維持するための優先課題として、経営資源の維持・確保に努めてまいりました。その結果、当事業年度末の資産合計は816百万円となり、前期末と比較して48百万円減少しておりますが、現金及び預金については5百万円の増加となりました。

連結貸借対照表における主な変動要因を、以下にご説明いたします。

（単位：百万円）

資産の部 変動要因	
①現預金	+5百万円
・フィスコ新規借入	+80百万円
・有価証券売却収入	+34百万円
・フィスコ/シグマ社借入金を返済	△106百万円
・新規システム構築関連	△47百万円
②投資有価証券	△30百万円
・シグマ社有価証券の売却	△25百万円
③差入保証金	△24百万円
・シグマ社旧事務所に係る敷金の減少	△18百万円
・フィスコ助言代理業の廃止	△5百万円

負債の部 変動要因	
借入金返済（短期・長期）	△26百万円
・フィスコ新規借入	+80百万円
・フィスコ/シグマ社借入金を返済	△106百万円

純資産の部 変動要因	
①利益剰余金	△15百万円
・当期純損失の計上	△15百万円
②その他有価証券評価差額金	+8百万円
・投資有価証券売却に伴う損失が実現	+9百万円

資本金、資本剰余金については、増減はございません。

	前期末 平成20年12月	当期末 平成21年12月	増減
（資産の部）			
流動資産	528	508	△20
固定資産	336	308	△28
有形固定資産	48	55	7
無形固定資産	18	34	16
投資その他の資産	269	217	△51
資産合計	864	816	△48
（負債の部）			
流動負債	213	174	△38
固定負債	186	184	△2
（純資産の部）			
純資産	465	457	△7
負債・純資産合計	864	816	△48

第三者割当による新株式発行に関するお知らせ

当社は、平成22年2月22日付プレスリリースでお知らせしているとおり、平成22年3月29日を払込期日とする第三者割当による新株式発行を予定しております。つきましてはその概要を、以下にご説明いたします。

【新株式発行の概要】

(1)発行期日	平成22年3月29日（月）
(2)発行新株式数	普通株式40,000株
(3)発行価額	1株につき22,370円
(4)調達資金の額	894,800,000円
(5)割当方法	第三者割当
(6)割当先及び株式数	(40,000株) SEQUEDGE INVESTMENT INTERNATIONAL LIMITED
(7)その他条件等	割当先が指名する取締役候補者の狩野仁志氏が当社定時株主総会において取締役に選任されること。 ※3月25日開催の定時株主総会で選任されました。

	調達した資金の具体的な使途と金額（百万円）	支出予定時期
1	財務基盤安定を図るための借入金返済	100 平成22年2月～平成24年12月
2	コンテンツデータベースの改良や配信作業の効率化を高めるためのシステム開発投資	300 平成22年2月～平成25年12月
3	中国・アセアンのコンテンツを拡充するための現地法人の設立運営	400 平成22年2月～平成25年12月
4	コンテンツ拡充のためのニューヨーク駐在員事務所の拡張	79 平成22年2月～平成23年12月

【割当先を選定した理由】

SEQUEDGE INVESTMENT INTERNATIONAL LIMITED代表者白井一成氏は、日本で事業承継したビジネスをもとに、時代の変化に機敏に対応することで事業転換を実現し、金融投資会社を中心とした企業グループを構築しました。特に、中国での事業に早くから注目、活動の拠点をアジアに移し、グローバルな展開を志向されています。

当社が今後積極展開を計画しているアジア経済地域、特に中国に於ける同氏のこれまでの事業実績と広範なネットワークは当社の事業拡大、企業価値向上に大いに資するものと期待しております。

連結損益計算書（要約）

当事業年度の売上高は1,033百万円でした。前期末と比較して、210百万円（16.9%）減少しております。主な要因は主力事業が苦戦を強いられて減収、加えて売却した連結子会社2社の売上が連結を外れた影響です。一方、利益面においてはグループ内の組織再編やコスト削減等効率経営に努めた結果、大幅に改善し、営業利益は4百万円（前期比152百万円の改善）。経常損失は4百万円（同232百万円の改善）、当期純損失は15百万円（同597百万円の改善）となりました。

連結損益計算書における主な変動要因を、以下にご説明いたします。

（単位：百万円）

売上高 △210百万円（前期比）

①連結子会社2社除外の影響 △83百万円

②情報サービス事業の低減 △134百万円

・法人向けリアルタイムサービス

△81百万円

・個人投資家向けサービス △58百万円

・教育事業 △22百万円

法人向けアウトソーシングサービス、ポータルサービスは好調に推移しました。

売上原価 △74百万円（前期比）

①連結子会社2社除外の影響 △61百万円

販売費及び一般管理費

△288百万円（前期比）

①連結子会社2社除外の影響 △115百万円

②前期固定資産減損処理実施による償却費負担減少 △40百万円

③合理化による経費削減 △75百万円

・人件費抑制 △45百万円

・システム関連費の削減 △30百万円

上記のコスト削減効果により、売上原価と販売費及び一般管理費の合計が、1,391百万円から1,029百万円へ減少しました（前期比362百万円減少）。

今後もコストの抑制は継続し、効率のよい企業体質を維持していく方針です。

特別利益 13百万円（当期計上額）

・シグマ社の持分変動に係る利益 8百万円

特別損失 21百万円（当期計上額）

・保有有価証券評価減（シグマ社）

7百万円

・保有有価証券売却損（フィスコ社/シグマ社）

7百万円

・事務所移転関連費用（シグマ社）

7百万円

利益分配について

当社は、株主に対する利益還元につきまして重要な経営課題と認識しており、安定的な株主還元を実施していく方針であります。

平成21年12月期は業績を鑑み配当を見送らせていただきましたが、収益基盤の再構築を図り、早期に復配を実現できるよう尽力してまいります。

前期 当期 増減
平成20年1月1日～平成21年1月1日～
平成20年12月31日 平成21年12月31日

売上高	1,244	1,033	△210
-----	-------	-------	------

売上原価	439	364	△74
------	-----	-----	-----

売上総利益	804	668	△135
-------	-----	-----	------

販売費及び一般管理費	952	664	△288
------------	-----	-----	------

営業利益	△147	4	152
------	------	---	-----

営業外収益	7	1	△5
-------	---	---	----

営業外費用	96	10	△85
-------	----	----	-----

経常利益	△236	△4	232
------	------	----	-----

特別利益	15	13	△2
------	----	----	----

特別損失	467	21	△446
------	-----	----	------

税金等調整前当期純利益	△688	△12	675
-------------	------	-----	-----

当期純利益	△613	△15	597
-------	------	-----	-----

（注）前期においては、財務健全性の観点から関係会社株式をはじめとする保有資産の評価を厳格におこない、大幅な評価減を実施した結果、613百万円の当期純損失を計上しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

前期 当期 増減

平成20年1月1日～平成21年1月1日～
平成20年12月31日 平成21年12月31日

営業活動によるキャッシュ・フロー	△76	27	103
------------------	-----	----	-----

投資活動によるキャッシュ・フロー	25	△3	△29
------------------	----	----	-----

財務活動によるキャッシュ・フロー	△180	△18	162
------------------	------	-----	-----

現金及び現金同等物の期末残高	314	319	5
----------------	-----	-----	---

【会社概要】 平成21年12月31日現在

商号	株式会社フィスコ
本店	東京都千代田区九段北4丁目1番28号 九段ファーストプレイス7階
代表者	代表取締役 三木 茂
設立年月日	平成7年5月15日
資本金	748百万円
決算期	12月

【役員】 平成22年3月25日現在

代表取締役会長	三木茂
代表取締役社長	狩野仁志
取締役	上中淳行
取締役	伊藤正雄
取締役(社外)	田野好彦
常勤監査役(社外)	麻生修平
監査役(社外)	藤井和雄
監査役(社外)	中道賢一

【株主メモ】

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当金受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	大阪証券取引所ヘラクレス
公告方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.fisco.co.jp/notification/index.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

IRサイトのご紹介

当社は、金融商品取引法および証券取引所の定める「適時開示規則」に則り、全ての株主・投資家の皆様に対し、迅速で公平、かつ正確な情報開示に努めております。

☑ IRインフォメーション

☑ IRスケジュール

☑ 業績ハイライト

☑ IR資料室

☑ 株価情報

☑ 電子公告

☑ 株式の概要

☑ IRお問い合わせ

☑ 株主構成

<http://www.fisco.co.jp/>

フィスコ

検索

【株式の状況】 平成21年12月31日現在

発行可能株式総数	100,000株
発行済株式の総数	33,014株(自己株式380株除く)
株主総数	2,506名

大株主(上位10名)	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社インデックス・ホールディングス	5,978	18.11
三木茂	2,978	9.02
株式会社サンジ・インターナショナル	1,876	5.68
楽天証券株式会社	1,200	3.63
朝田英太郎	1,145	3.47
ロイターエスエー	1,100	3.33
荒川忠秀	656	1.99
クリスティンキャピタルコーポレーション	640	1.94
国際株式会社	542	1.64
大阪証券金融株式会社	419	1.27

- (注) 1. 持株比率は自己株式(380株)を控除して計算しております。
2. 持株比率は、小数点第2位未満を四捨五入しております。

【株式分布状況】 平成21年12月31日現在

